

The Association of Liquid Filtration and Purification Industry

LFPI News Letter

Winter 2004 No.26

自信・情熱



会員の皆様あけましておめでとうございます。

冬来たりなば春遠からじ。これは、19世紀英国ロマン派の抒情詩人シェリーによる「西風の賦(Ode to the West Wind)」という

詩に由来した格言であると聞いている。かつてはこの格言に希望を託し、春の到来を待ち望むことに多少の意義を認めることができたであろう。しかし、バブル崩壊後の長びく需要低迷とアジア諸国よりの輸入増大、捗らない構造改革等の要因が相俟って、国内産業とりわけ製造業界に大きな打撃を与え続けている現状は、そのような生易しくも淡い希望をとっくの昔に消し去って、政治や他力に頼ることなく、それぞれが自力によって懸命に生き残り再生を図るべく技術開発・新製品開発に取り組んでいる。

最近、開発競争力について考えさせられたことであるが、中国が有人ロケット神舟5号の打ち上げ・帰還に成功し、片や日本は情報収集衛星2基を搭載したH2Aロケットの打ち上げに失敗、軌道に乗せることすらできなかった。(米国は35年も前にアポロ宇宙船の月面着陸に成功しているというのに。)この成功と失敗の要因を単純に比較することはできないが、日本のというよりも日本人の開発と成功にかける自信のひよわさ・脆弱化と情熱の希薄化を思わずにはおれない。「自信あるところに情熱あり。情熱あるところに成功あり。」というのが私の信念である。東京オリンピックを目標に、1959年4月新丹那トンネル東口で起工式をあげた東海道

新幹線は、わずか6年半後のオリンピック開会式の直前に開業し、冠たる最速鉄道の技術開発と実用化に成功。世界を瞠目させるとともに、日本人に大きな自信を与えた。あの頃のみなざる自信を日本人はどこへ失ってしまったのであろうか。自信とは己を信じることである。そして、信じるということは、「望んでいることを確信し、まだ見ていない事実を確認することである。」と聞く。高度成長にうかれているうちに、精神が弛緩し大事なものを失ってしまったようであるが、失ったものをいま一度取り戻すことが、企業再生のみならず、日本を救う早道ではと思わせられる今日この頃である。

一方の情熱であるが、それは責任感と一体をなして、情熱の希薄化は責任感の喪失に起因している。経営者も従業員もそれぞれ職場において計画達成の責任を負っているが、その達成は効率×時間という単純な図式で示しうるものではない。企業を愛し、仕事を愛することから生じるところの、ほとぼしる情熱なくして計画を達成し責任をまっとうすることはできない。更に自分を愛することも大切である。なぜなら、自分を愛することができない者は自信を持つことができないからである。国(日本人の共同体・風土。及びこれらが生み出した文化)を愛すること。企業と仕事を愛すること。家族や友人を愛すること。そして、自分をも愛すること。日本人が失いつつある愛の復活が企業の再生にもつながるのではと思うのである。

宇野友三郎

大阪サニタリー金属工業協同組合 副理事長

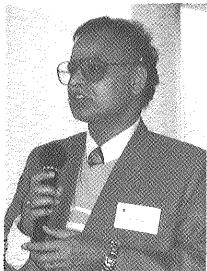
冬の講演会報告〈中国進出企業の法的実務と知的財産権について〉



講演会報告

去る12月9日(火)ヨコハマプラザホテルにて冬の講演会、として『中国進出企業の法的実務と知的財産権について』という表題で講演会が開催された。講演会プログラムは3件あり、以下、発表順に従って内容概略と私の感じたことを報告する。

1.『インドの液体清澄化技術の現状と展望について』



Prof. Dr. Mohan

講師はインドのDr. Mohan氏で、南インドのAnna Univ.から横浜国立大学に膜の研究のため来日されているとのこと。

発表内容は排水処理とリサイクルの問題、インドでのRO膜の研究状況、各種排水のRO膜を組み込んだ処理の実例紹介、といったものでRO膜がいかにその分野で貢献できるか、できているか、という点に力点がおかれているように感じた。

2.『中国進出企業と課題—特に税法に関して—』



数井康治氏

続いて東京リサーチインターナショナル(株)の数井氏による表題の講演が行われた。数井氏は中国滞在7年間の経験があり、現在は中国進出企業のアドバイザーとして活躍しているとの紹介があった。

中国の税制は非常に複雑であり、制度自体が流動的なものであるとのことであった。いきなり日本にあるような住民税、相続税、贈与税はない、ということや個人の所得税は徴収率が悪く、払っていない者が90%以上である、ということを知って驚いた。

質疑応答を含め、記憶に残った点を羅列します。中国人には納税意識がない、納税する人のほうがおかしい、という意識を持っている。脱税は常に念頭にある。縦割

り社会であり、互いに干渉しない。立場は西洋人と同じだが西洋人のほうが率直に文句を言う。西洋人は現地のスタッフをうまく使っている。日本人に似ているようだが個人主義の国であり、考え方、習慣は異なる。日本人はある種の思い込みがある。客観的な見方が必要。等、大変な国のようだ。

3.『中国事業展開における知的財産権の取扱い』

最後に協和特許法律事務所の黒瀬氏による講演があった。メリハリの利いた話し方でとてもエネルギーを感じた。中国との交渉はこのくらいエネルギーをもっていないとやっていけないのだろう。



黒瀬雅志氏

中国の知的財産を扱う管轄官庁は国家知識産権局(専利局)、国家工商行政管理総局(商標局)、国家版權局、地方の行政機関とのことで管轄官庁が多く複雑であるようだ。特許出願件数も非常に伸びており、2002年度の発明特許は約80,000件(日本18,000、米国10,000)とのこと。また商標出願件数が370,000件(日本120,000)とのことである。商標大国であり、それだけコピー製品が多いということに繋がるようだ。

また米国に劣らず訴訟社会となっており、何にでもクレームをつけると儲かる、といった風潮があるようで、日本の常識は通用しないと考えておいたほうがよいとの指摘があった。その他色々参考になる話を拝聴したが、とても紙面に書き尽くせない。最後には「これだけ問題点があります。それでもあなたは中国へ進出しますか?」と言われているような気がして新しい知識を得た満足感と同時にやや不安を感じる思いで講演会の終了となった。

講演の後、交流会が催された。私は都合で参加できなかったが、かなり盛り上がったのではないだろうか?

<ハイモ(株) 野原 孝司>



懇親会風景

新春特別座談会〈青年部会を支えるLFPI第3世代〉



インタビュー風景

◆去年の新春鼎談で松本代表幹事から「会自身のなかで自発的にやっていくような、青年商工会議所ではないが、これからは我々が工業会を引っ張っていくのだという気概をもった組織を作るべきなんです。」というご意見が出て、その後、幹事会で当会理事の第1世代、同幹事の第2世代に継ぐ第3世代を中心とした組織を作るという案が可決され、去る11月20日「青年部会」として発足致しました。それを記念して、今回の新春特集は、この会の立ち上げに世話役としてご尽力された神奈川機器工業(株)のト部礼二郎氏と(株)トーケミの細谷卓也氏にお集まりいただき、青年部会の発足までの経緯と同設立会の内容、今後の抱負、ご自身のことなどを中心に、率直なご意見をお聞かせいただきました。なお、もう一人世話役としてご活躍されたミウラ化学装置(株)の三浦紀彦氏のご都合がつかず欠席されました。

1. 青年部会設立会まで

◆青年部会設立会は盛会だったと聞いています。今のお気持ちは？

細谷：正直ほっとしています。私が参加している技術委員会、去年春に松本先生から、若手の会を作ってほしいというような打診があったのです。私ひとりですかとお聞きしたところ、他の方にもお願いしていると言われて、ト部さんを紹介されました。

ト部：私は国際交流委員会に入って3年くらい活動しているのですが、住まいが横浜国大に近いということもあって、会の行事にはけっこう参加しているので、松本先生からお声がかかったのだと思います。確か、東京のトーケミにお邪魔して最初に細谷さんにお会いしたのが昨年4月10日で、若手の人を集めるにはどうしたら良いか話し合いました。

細谷：最初の1ヶ月くらいは会の名前をどうしようかと悩みましたが、結局、現在の「青年部会」に落ち着きました。それから大阪のミウラ化学装置の三浦紀彦さんを紹介いただき、ト部さんといっしょに大阪の三浦さんを訪ねて世話役をお願いしたところ、快く引き受けていただ

いたのです。この3人で5～6回会合を持って、アイデアを練り、11月20日の設立会を迎えました。また、設立会当日まで20回以上、事務局の吉川さんとメールのやりとりをして、運営のイロハをご指導頂きました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。吉川さんは影の功労者だと思います。

ト部：設立会までの一番の懸案は年齢制限をどうするかということで、年齢枠を作った場合、果たして人が集まるかが心配

でした。結局、青年というのだからやはり年齢制限が必要だろうということになり、「平成15年12月31日時点で年齢が45歳に達していないこと」としました。それで募集をかけて、最初は10名参加に目標をおきました。ふたを開けてみると、14名というご参加を頂き、ありがたかったです。

2. 青年部会設立会の内容

◆それでは次に設立会当日のことをお聞かせ下さい。

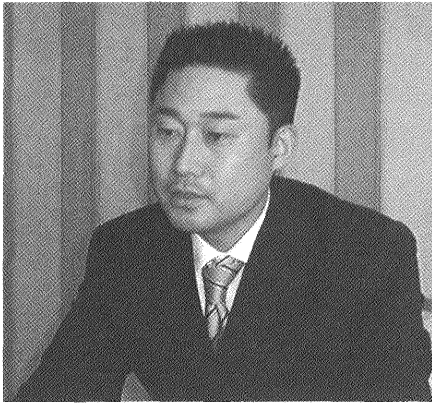
細谷：最初に松本先生が液体清澄化技術全般の話から始まって、グローバルな視点から中国問題や今後の企業のあり方など幅広い内容で75分みっちり話されました。言葉は悪いですが、こういう集客力のある目玉の講演がないと各社の上司はなかなか若手を外に出してくれません。その意味で良かったと思います。

ト部：次は矢野さん(OB協力会員)によるLFPIを自分のライフワークとして会を盛り上げてきたという思い入れのある講演でした。そして、澤田さん(栗田工業)がご自身の研究生生活を振り返りながら、LFPIのこれまでの関わりを説明されました。外部の活動に積極的に関わって自分を成長させることが大切だと思いました。澤田さんが言われた中で面白かったのは、「LFPIでは『栗田工業の澤田』ではなく、『澤田』としてつきあえるからやりがいがある」という言葉です。LFPIでは会社のメリット云々もありますが、後世に技術や知見を残そうという私利私欲にとらわれないボランティア的な面が強いからそういうことになるのだと思います。そして、次が細谷さんでした。

細谷：私のプレゼンは「建前と本音」です。皆さんにコピーしてお配りしたのは「建前」の部分。でも自分が本当に訴えたかったのは「本音」の部分。最初どうしようかと皆さんに相談したのですが、幹事会の時に、矢野さんもト部(兼好)さんもおもしろいと言ってくださったので、両方

新春特別座談会〈青年部会を支えるLFPI第3世代〉

やったのです。まず、建前の部分で、青年部会の目的は「液体清澄化技術工業会の会員企業若手社員の人材育成を行うと共に、次世代の液体清澄化技術工業会の中心人物となる人材を育成すること」です。そして、何をするかという「①社会的な人格形成を行うための講演会、講習会、勉強会の開催、②会員企業のみならず、知見を広げ



細谷卓也幹事(㈱トーケミ)

るために役立つ人々との交流、③その他液体清澄化技術工業会の協力活動」ということとなります。これが本音になると「おもろく楽しく」がまずキーワードと思っています。生きているのではなく、生かされている、仕事楽しくない、人並みで構わないと思うような「普通の人」にならないで「前向きに楽しく仕事をする人」になるために青年部会を利用してほしいと訴えたのです。青年部会には「自分の会社という小さな枠ではなく、会員企業の人々が集まり、同年代の優れた人材が集まり、人が集まると情報が集まり、LFPIという組織を利用することができる。まずは『おもろく楽しく』青年部会で楽しく仕事する方法を考え、能力を身につけましょう」と結びました。

ト部: そのあと、場所を1階のレストランに移して懇親会となったのですが、お酒が入ってうち解けたとたん、本会の時の堅苦しさは一挙に抜けて、皆さん、とてもエネルギーに驚きました。自分たちもうかうかしてられないという気持ちになり、これだけのバイタリティがあれば、今後の青年部会も明るいと思えてきました。

3. 青年部会の今後

◆さて、設立会は終わりました。これからの活動をどうやっていこうとお考えでしょうか。

ト部: 発足まで半年かけて第一の目的である設立会はクリアしました。次は第2の目的である今後の継続的活動ということになります。これまでは私と細谷さん、三浦さんと3人が世話役として設立会までは漕ぎ着けたわけですが、やはり何か活動を計画、実行する委員会みたいなものが必要でしょうか。

細谷: 委員会は必要でしょうね。実際に委員会の構成や進め方は我々が決めて、委員候補者に事前に根回しはするにしても、もう一度青年部会としてどこかに集まって、みんなの前で委員を選任し、このように会を運営したいと諮問し、議決し、それを議事録に残し正式にスタートすべきだと思います。

ト部: 賛成です。今回参加された14名をみると、関東、中部、関西と勤務先が大きく3つに分かれています。委員を各地域から選んで、それぞれの地域活動を指揮いただきながら、年3回、各地域が主催する総会的な催しを開くというのはどうでしょう。

細谷: それは面白いですね。地域が近ければ頻繁に話もできるし、遠出することもない。出張になるような総会は年3回が限度だと思います。まず横浜でやったら、名古屋、大阪と開催地を変えていく。

ト部: 「いつ」、「どこで」、「誰が」は大体固まったと思えますし、「なぜ」は細谷さんのプレゼンで明らかです。また、「どのように」は委員会の中で練ればと思いますが、肝腎なのは「何」をやるかですね。細谷さんのプレゼンの中には「特許の戦略、法律の勉強、海外戦略、管理者講習、イン



ト部礼二郎幹事(神奈川機器工業㈱)

ターネット戦略、著名人の講演会、企業間取引におけるリスクマネジメント、財務管理、Web戦略、開発スタッフの育成」などが挙げられています。ポイント

はLFPIの通常の活動内容にはない、「青年部会ならでは」といわれるような企画ということになると思います。

細谷: 「何」をやるかについては追々ゆっくり考えることにして、まずは「おもろく楽しく」やっていきましょう。近々また今後の活動について三浦さんも交えて話し合いませんか。

4. 第3世代論、ビジネス、ご自分のこと

◆青年部会に関する話題はこのくらいにして、次にLFPIの第3世代といわれる皆さんの世代、ビジネスのこと、ご自身のことなどをざっくばらんにお聞かせ下さい。

まずは世代論から入りますと、お二人は昭和45年前後のお生まれです。私見ですが、三島由紀夫の死の年である昭和45年で昭和は

新春特別座談会〈青年部会を支えるLFPI第3世代〉

終わったと思っています。氏は大正14年生れで歳が昭和の年号と一致しており、まさに戦後日本の紆余曲折と高度成長が20歳から45歳までの文学・思想の歩みと重なっている。三島の死でひとつの時代が終わったと思えるのです。そういう意味で新しい日本を支えていくのがお二人の世代だと感じています。

細谷: 自分が育った時代はものが有り余って何の苦勞もなく大きくなったというのが実感で、まわりも見ていて、自分の世代は「無機物人間」だと思っています。自分から求めて何かをするのではなく、与えられたものだけで動き、流されて、目立たない、ロボットのような人間。ハングリー精神は皆無。自分はそうあってはならないと自覚して行動しています。会社だけの枠にとらわれないで、ネットワークの中で数珠繋ぎに人脈をつなげながら有機的な動きをしながら、仕事をしていきたいと思っています。その意味でLFPIは自分の考えが生かせる内実を持っています。

卜部: 私はあまり世代的なことを考えていませんが、自分の中では3年半のイギリス経験が大きいですね。自己アピールの重要性や休暇の考え方の違いなどが一種のカルチャーショックでした。特に休暇に関して感じたのは、その3年半の後半に結婚した時です。1週間新婚旅行で休みたいといったら、その時世話をしてくれていた会社の上司が「卜部、新婚旅行でたった1週間か、2週間休め」と命令されたのです。その時は本当に時間を持て余しましたね。

細谷: 私はドイツに1年ほどいたのですが、感じたのは身分制ですね。ホワイトカラーとブルーカラーの色分けが鮮明なものには驚きました。ベルリンの壁崩壊後でしたが、東側からきた人たちが主にブルーで休憩時間や食事時間までホワイトと別でした。

◆おふたりは現在、経営の中枢におられますね。ご入社の経緯や現在のお仕事などをお聞かせ下さい。

卜部: 祖父(母方の父)が軍にいまして、戦車など油を捨てながら戦っていたので、これでは勝てないと戦後、油をろ過して再利用するためフィルター(ノッチワイヤー式フィルター)を開発して興したのが今の会社です。祖父のあとに一人社長がいますので、父は3代目になります。社長を継いで、まもなくオイルショック+造船不況が起こったのです。その時創業以来初の赤字となり、社内の改革を断行しました。翌年から健全な経営となり、そのまま今の小回りのきく組織として引き継がれています。実際あの決断がなかったら、現在はなかったと思います。私にも今後そのような大きな波はあると思っています。

ますが、そうした試練を楽しみたいという心境です。今は船舶向けのオイルフィルターが80%ですが、残りがサニタリービジネスで今後はこちらを伸ばしていこうと考えています。兄がいて、サラリーマンをしています。今後は兄弟で会社を盛り上げて行く形が理想と考えています。

細谷: わが社は今、世代交代の時代です。創業40年で創業時代の従業員が定年を迎えだして技術の継承が課題です。第2世代は、ちょうど会社の成長期と重なり、現場や実務には優秀な人材は多いのですが、後輩の育成や技術開発力に欠けているところがあると思われます。創業者である現社長の石炭をろ過に使うという発想から、【金のなる木】にありつき、その【金のなる木】でこれまで飯が食えたため営業主体で、どちらかというところと研究開発はなおざりにされてきました。昨今の膜の躍進を考えても、正直、ろ過砂やアンスラサイトの需要は減っていくと思われます。これではいけないと、専務である父の命を受け、現在自分がリーダーとなって開発業務を進めています。

◆青年部会が所期の目的を達成されることをお祈りします。本日は長時間ありがとうございました。

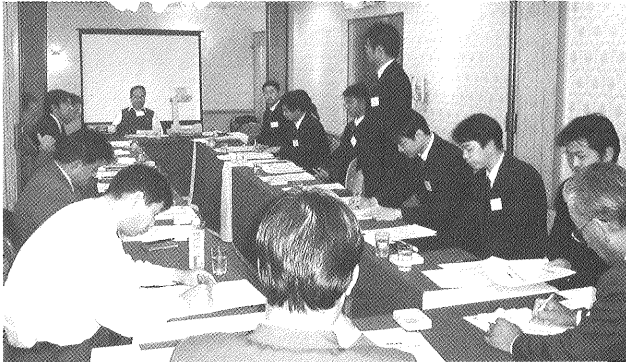
<司会、構成、文責: 広報委員 青木 裕>



細谷、卜部両幹事

卜部礼二郎 神奈川機器工業株式会社 サニタリー機器営業部 取締役・部長 昭和46年7月10日 横浜生れ 日本大学生産工学部機械工学科卒業 神奈川機器工業から出向の形で、イギリス(ギルフォード)のヴォークス社(フィルターメーカー)に3年半勤務後、現在に至る。LFPI幹事、国際交流委員。
細谷卓也 株式会社トーケミ 事業推進部 部長(東京勤務) 昭和45年5月22日 大阪生れ 明石高等工業専門学校土木工学科から豊橋科学技術大学建設工学科に編入し、同大学院卒 トーケミから出向の形でドイツ(ハイデルベルク)のプロミネント社(ポンプメーカー)に1年勤務後、現在に至る。LFPI幹事、技術委員。

「LFPI青年部会設立会」報告



青年部会設立会風景

2003年11月20日(木)、横浜プラザホテルにてLFPI青年部会設立会が開催された。初めに細谷幹事(株)トケミによる開会の挨拶があり、その後、講師の方々の紹介、そして、緊張感の漂う中、参加者各人の自己紹介により設立会が始まった。

【講演会】



松本教授

1. 「最近の液体清澄化技術の動向と未来」 横浜国立大学 松本幹治教授

用・排水処理における膜技術の展望、中国の動きやLFPIの組織紹介に至るまで、わかりやすく説明いただいた。膜技術の展望では、下水処理から環境ホルモンの除去に至るまでのテーマで話され、今後は環境に対する負荷の少ないフィルターが重要となってくるとのことであった。

中国の動きとしては、視察された生の話を聞くことが出来た。その中で中国ではここ数年、日本製と同様の製品が低価格で生産されており、純水製造コストに関しては日本の1/3~1/4とのことで、又、水事情が悪いために家庭用の浄水フィルターが普及するかもしれないとのことであった。さらに、上海近郊の無錫や宜興の発展の状況についてもお話いただいた。また、世界市場における日本の実力について表を参照しながら説明いただき、日本が生き残っていくためには、われわれ若手がより一層がんばらなくてはならないと強く感じた。最後のLFPIの夢と将来については、工業会の活動が社会貢献につながり、企業のみならず、個人に恩恵をもたらせる



矢野OB協力会員

2. 「LFPIの歴史」矢野政行氏(OB協力会員)

LFPIの発足当時から現状、ご自身

ようになればということで、私自身も微力ながら夢を実現するためにがんばってゆきたいと思った。

との関係、青年部会に望むことについて話があった。発足秘話では、当時事務局がなく、設立準備会では経費的に苦勞をされたことや、松本先生のバイタリティー(強引さ)により運営ができてきたとの裏話が聞けた。また、青年部会に望むことについては、会を通して長い付き合いのできる人脈を作りたいと話された。話の中で「時間が無かったことを言い訳けにしないで欲しい」との言葉は強く印象に残り、今後心がけてゆきたいと思った。



澤田幹事(栗田工業株)

3. 「LFPIの将来」栗田工業株 澤田繁樹氏

ご自身の経歴について年表をもとに話があった。現場の監督から始まり、物作りに対する探求心から研究者の道に進んで行かれたとのこと。

また、青年部会に対して望むこととしては、「人脈を大切に」、「若手を外に出してやれ、出たら積極的に活動して欲しい」との話があった。

人生の中でどのようなことが転機になるかはわからないが、どんどん外部活動に参加して行きたいと思った。

4. 「青年部会の主旨と活動予定」(株)トケミ 細谷卓也氏



細谷青年部会幹事(株)トケミ

青年部会の目的や活動内容についてわかりやすく説明があった。講演会や勉強会やいろいろの方との交流を通して、各人の知見を広げていって欲しいとあった。また、後半部分では「自分で考え、行動するものだ」という意気込みや、演者の快活さを感じ入った。

【情報交換会】

情報交換会はホテル1階のレストランに場所を移し、黒ビールの乾杯で始まった。ムードーな雰囲気もあってか、すぐにそれぞれのテーブルで歓談が始まった。同年代(30才代)の方が多く、すぐにうち解けることができたと思う。また、会中頃では笑いや拍手が飛び出す自己紹介があったり、諸先輩方からの厳しくも温かい助言もあり、大いに盛り上がった。そうこうしているうちに楽しい時間はあっという間に過ぎ、最後に再会を約束し、盛会の内に閉会となった。

今後も諸先輩方からの励ましの言葉を心に刻み、青年部会の活動に積極的に参加してゆきたいと思っている。

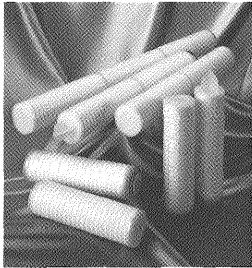
<安積瀘紙株 白石 松太郎>

新製品／主力製品紹介

このコーナーは名簿順に掲載する予定でありますが、新製品開発がタイムリーな時期にあたる会員企業は優先的に掲載を検討致しますので広報委員・富士フィルター工業(株)ト部宛ご連絡下さい(E-mail:urabe@fujifilter.co.jp)。

「チッソポーラスファイン」

〈製品概要〉チッソポーラスファインカートリッジフィルターは、当社のポリマーから膜製造までの一貫した素材技術を応用したプリーツ型カートリッジフィルターです。



素材のポリマーは独自に設計した、耐薬品に優れた樹脂を用いて製膜しました。この膜は、極めて素材の脱落がなく、素材が強固に自己融着した目開きが起らない膜で、フィルター素材としては最適な素材で作ったカートリッジフィルターです。

〈特長・仕様〉

①本製品はポリマー段階から設計された非常に耐薬品性に優れたフィルターです。②フィルターに使用されている膜は自己接合性の素材を使用しているため、素材の脱落がありません。③膜自身に強度があるので、差圧上昇時に目開きすることが無く、最後まで一定の濾過精度を維持します。④膜孔径は0.1、0.2、0.45、0.6、1.0、3.0、7.0 μ mの品揃えがあります。⑤膜の開孔率も非常に大きいので、低圧力損失のフィルターとなっています。⑥全数完全性試験を実施しています。

主な用途として、PDPや液晶光学部品、電子部品の洗浄、純水製造、各種薬品の濾過から、食品分野まで幅広くご使用出来ます。

チッソフィルター株式会社

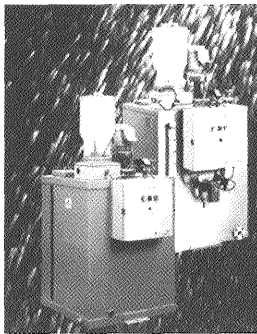
〒530-6591 大阪市北区中之島3-6-32

TEL (06) 6441-3257 FAX (06) 6441-8836

URL: <http://www.chisso.co.jp/filter/>

高分子凝集剤自動溶解装置New PADシリーズ

〈製品概要〉従来のPAD、E/PAD両シリーズを融合させた給水比例方式のPAD-Qシリーズと給水定流量方式のPAD-Cシリーズを新発売。コンセプトは、“クオリティーの向上とコストダウンの両立”です。特に溶解の信頼性、そして操作・メンテナンス性を向上させながらもお求め易い価格に抑えました。



〈特長・仕様〉

①膜式ドライヤーから得られる高品質ドライエアーによる空気分散・防湿システム。薬品を選ばず、ママコのない溶液が得られます。②操作の容易な初期溶解と連続溶解のオール自動化設計でワンタッチ運転が可能。③どのような現場にもマッチする省スペース設計に加えて、オリエンテーションのカスタマイズ設計で顧客満足度No.1。④溶解精度の高いことで定評の流量比例モデルと、リーズナブルな定流量モデルの2モデルをラインナップ。さらには操作性、保守性を高めた液晶タッチパネルモデルも取り揃えています。ご予算に合わせてお選び下さい。

株式会社トーケミ 事業推進部

〒532-0021 大阪市淀川区田川北1丁目12番11号

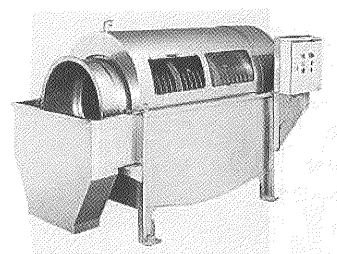
TEL (06) 6301-3143 FAX (06) 6301-1817

URL: <http://www.tohkemy.co.jp>

TSDラムスクリーン

〈製品概要〉円筒形状に巻いたスリット構造(目開き)をもつスクリーンを、回転させながら、スクリーン表面で分離、脱水、濃縮を行う、広義でのろ過装置です。

排水処理工程での二次処理、高次処理の負荷軽減としての一次処理の役割や、生産工程での分級、脱水、濃縮など、あらゆる分野での豊富な実績をもつ、頼れる装置です。



〈特長・仕様〉

スクリーン表面を構成するウェッジワイヤーは、従来のパンチングプレート、メッシュ金網と比べ、▽逆三角形の断面構造を持ち、固形物通過接触点を小さくし、末広りの目開きが通過性を向上させるため、目詰まりが少なく、脱水性能が極めて高くなり、逆洗効果も高まります。回転する円筒内部に取付けた螺旋で、処理物を出口方向へ送り出すので、次工程への運搬、取出作業もスムーズに行えます。また、装置全体もシンプルな構造で、操作不要の無人連続運転を可能にし、メンテナンスも容易で、設置面積を取らずして処理量が大きいメリットも併せ持っています。

東洋スクリーン工業株式会社

〒636-0103 奈良県生駒郡斑鳩町幸前2丁目10番6号

TEL (0745) 70-1700 FAX (0745) 70-1701

URL: <http://www.toyoscreen.co.jp>

企業紹介

伊那食品工業株式会社

『いい会社をつくりましょう』—たくましくそしてやさしく、これが当社の社是です。『いい会社』とは単に経営上の数字が良いというだけではなく、会社をとりまく総ての人々が日常会話のなかで『いい会社だね』と言ってくださるような会社です。さらに、社員自身が会社に所属することの幸せをかみしめられるような会社を言います。

上記は社員一人一人が持っている社是カードの本文です。会社とは社員や会社をとりまく人々の幸せのためにあるべきだという理念のもと、私たちはプライドと理想を掲げて、小さくても光輝きながら永続する会社をめざしています。

寒天を作り続けて46年、今では様々な寒天がいろいろな業界で使われるようになりました。これからも日本で生まれたすばらしい寒天の特性を生かした提案と、新しい製造技術の開発に日々取り組んでいきたいと思えます。
(春日真一)

不二製油株式会社

不二製油株式会社は、油脂、製菓製パン素材、大豆たん白などの食品中間素材メーカーです。2002年に国内での搾油事業からは撤退し、チョコレート用、冷菓用、クリーム用、フライ用、スプレー用などの業務用油脂、チョコレート、マーガリン、クリーム類、発酵フィリング材を食品加工や菓子・パン用の素材として、粉末状分離大豆たん白をハム・ソーセージや水産練り製品用、健康食品用に、給食・外食向けに、がんもやハンバーグ、和風即席めん用の油揚げなどの大豆たん白食品を、生産しています。コレステロールを下げる特定保健用食品の「豆乳」「豆乳ヨーグルト」、不二独自の製品である「水溶性大豆多糖類」「大豆ペプチド」など、健康効果の期待される大豆関連事業には特に注力しています。こういった製品を、日本、アメリカ、ヨーロッパ、中国、アジアの現地で生産、現地で販売しています。売上高規模は、2002年度油脂505億円、製菓製パン素材673億円、たん白366億円、海外売上げ319億円、単体1000億円です。
(釘宮 渉)

株式会社住化分析センター

1972年(昭和47年)、環境問題の浮上や製造業を中心に産業界の研究開発活動の中で分析の必要性が高まってきたことを背景に、住友化学工業の検査分析部門の一部が分離独立してスタートした。この間、蓄積した分析技術と実績は今日、国内外の広範な産業・研究分野から極めて高い評価を獲得するばかりでなく、いまや国内最大の総合分析受託企業として存在を示すまでに成長をとげた。

さらに、信頼できるデータの提供はもとより、「ユーザーの機密を厳守」と「顧客満足の追及」、そして「見えない市場を見る」という姿勢はユーザーから“頼れる分析機関”として厚い信頼を受けている。

分析評価に対するニーズがますます広がり高度化する時代の中で、この期待にこたえるべく、住化分析センターは技術に更なる磨きをかけるとともに、あらゆる分析を受託できる専門家集団として新たな飛躍を目指す。
(西本和夫)

ライト工業株式会社

当社は、昭和18年創業以来、たゆまぬ研究、開発を進め幾多の特殊工法を企業化し、これらの技術を道路、鉄道、地下鉄、上下水道、ダムなどあらゆる分野に適用し、我が国有数の特殊建設会社として発展してまいりました。特に、得意とする法面保護工事分野では、従来のモルタル吹付に加え、アンカー工法、緑化工法などを組み合わせた工法を開発し、安全、自然環境保護等で理想的な工法としてその威力を発揮するなど、この分野のエキスパートとしての評価を得ております。その他、地盤改良工事分野では、フランス・ソレタンシュ社より技術導入したソレタンシュ注入工法をはじめとする各種の工法を駆使し、これまで困難とされていた多くの難工事にてその成果を上げております。また、下水道工事分野においても、安全・無公害の管理設工法(プラス工法)を企業化し、従来技術のイメージを一新する画期的な工法として注目を浴びております。このように当社は、常に時代のニーズに応える各種の土木技術を開発することにより、今後も社会に貢献していきたいと考えております。
(大西高明)

新事務局長就任挨拶



会員の皆様、新年をお迎え致しまして誠にありがとうございます。

私は昨年10月30日第7回定時総会で事務局長を拝命致しました堀田でございます。事務局は今回の定時総会で初めて各企業持回りから独立することが審議され、承認されたとの事でございます。従って、事務局長としては私が初代局長と云うことでしょうか。

ここで私事でありますが液体分離との出会いについて振り返りますと、日立製作所入社後、火力発電・化学プラントなどの仕事に携わった関係上、蒸気・水・油・空気などのストレーナーや焼結金属型のフィルター、遠心分離機、更にボイラー給水用水処理ではイオン交換樹脂にも出会っております。

その後日立プラント建設に勤務し、1981年から始まった通産省の「水総合再生利用システムの開発」(通称:アQUALネサンス'90)では、活性汚泥を直接分離するための「回転平膜"アクアUFO"…商品名」をプロジェクトチームにて開発し、商品化致しました。この装置はビル中水道を始めとし、高濃度活性汚泥を直接ろ過する方式で、し尿処理装置などに適用される高濃度固液分離装置です。

さて、私の経歴はこの辺にしておきまして、本技術工業会の主旨は「新技術・改善技術に関する調査研究を積極的に推進し、情報交換や異業種交流を促進することで企業の清澄化技術の技術力向上と応用範囲の拡大を図る。」とあります。

昨今の閉塞した経済状態の中では大型の新技術や改良技術などは育ちにくく、ひいては後進国の安い賃金にマーケットを譲っているのが現状かと思えます。

これらを打破する為には新技術・改良技術などの開発が必須条件ですが、一社では資金力、技術の奥深さから困難を極めております。そこで、参加各社が得ているエンドユーザーからのニーズをもとに、国及び地方自治体から資金参加を得、大学の優秀な頭脳とメーカーの物造り技術などの総合力を発揮する、いわゆる「産・官・学」のプロジェクトを本技術工業会もより一層推進することが必要ではないかと考えます。

これらの考え方を今後会員皆様方と討議しながら本技術工業会をより一層活気に満ちた魅力あるものに行きたいと考えますので、宜しくご協力ご指導をお願い致しまして私の就任の挨拶と致します。

<事務局長 堀田正見>

行事予定表

LFPI基礎講座2004年3月度開講案内

好例の技術講座を下記の通り開催します。今回は、ユーザーが現在抱えている液体清澄化と環境保全に関わる課題をユーザーの生の声として提言していただき、これらの課題に対応する技術例を紹介するという企画です。特に、最近話題になっている窒素・砒素・ホウ素・フッ素等の有害無機イオンの除去技術を取上げました。また、会場を昨年までの横浜国立大学から横浜駅前のヨコハマプラザホテルに移して、参加者の足の便を考慮しました。多数のご参加を期待しています。

テーマ:水環境対策の課題と処理技術

—有害無機イオンを中心として—

1. 医薬品原薬製造工場における環境対策の現状と課題(第一製薬(株))
2. メッキ工場における環境対策の現状と課題(株山王)
3. 高濃度窒素排水の処理(日立プラント建設(株))
4. 電気透析法による地下水中の硝酸性窒素除去(神鋼環境ソリューション(株))
5. 晶析装置「エコクリスタ」による排水処理・有価物回収技術(オルガノ(株))
6. 吸着樹脂を用いたフッ素・ヒ素除去(新日本ソルト(株))
7. 排水中のほう素リサイクルシステム(日本電工(株))
8. RO膜による砒素除去の理論と実情(江守商事(株))

日 時: 2004年3月4日(木)10:00~17:30

場 所: ヨコハマプラザホテル(横浜駅東口徒歩3分)

参加費: 12,000円(会費:8,000円、交流会:4,000円)

なお、演題および講師については調整中です。詳しくは、追って別送の案内書をお送りします。

編集/発行:日本液体清澄化技術工業会 広報委員会
住所:〒194-0032 東京都町田市本町田2087-14
TEL(042)720-4402 FAX(042)710-9176
LFPIホームページ <http://www.lfpi.org>